

笑顔明中



平成24年 1月10日 第11号

明けまして

おめでとうございます

今年も、学校教育に対してご理解ご協力のほど宜しく申し上げます

校長 保母 直彦

年の始めの 例（ためし）とて終りなき世の めでたさを
松竹（まつたけ）たてて 門ごとに祝（いお）う今日こそ 楽しけれ

これは、「一月一日」という歌の一番です。今では聞くことさえほとんどありませんが、私が子どもの頃よく歌ったものでした。「松竹たてて」という一節は「松竹でんぐりがって大騒ぎ」という替え歌を喜んで歌っていたのでろくな子どもではありませんでしたが。なぜ、この歌になじみがあるかと記憶を辿ると、小学校低学年頃まで(だろうか)、正月には、新年の儀式があり、わざわざ登校をしていました。寒さ厳しい元旦、教室で友達と新年の挨拶を交わし、屋体に集まりこの歌を歌いました。校長先生の新年へ向けての話も寒さをこらえるためにそわそわしてほとんど耳に入らずという感じでしたが、帰りに、紅白の饅頭をもらえることが楽しみだったという思い出があります。

さて、新しい歳を迎え、学校は年度途中ではありますが、新しい門出へ向けて動き出します。特に3年生は、自らの進路に向け正念場を迎えます。まだやる気が起きんとか何とか言っている場合ではありません。待ったなしです。是非とも、自らの力で次への道を切り拓くための力強い歩みを期待しています。2年生は、「決意の会」をやり遂げ3年生から伝統を引き継ぎ、4月からの学校の新リーダーとしての構えづくりをしていきましょう。1年生は、今までのように聞いて、見て学んできた立場から、学校の強力な推進者としての活躍が期待されます。3学期は、新学年への0学期です。

